

自己評価

学校運営計画(4月)

評価(総合)

A

学校運営方針		県立高校として福岡県の目指す教育目標に沿いながら、校訓である「進取、至誠、自治」の精神を涵養する教育を行う。	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>感染症防止対策を講じながら、可能な限り教育活動を実施することができた。次年度は、さらに生徒が主体的に学習するような教育活動や令和4年度から実施する観点別評価をとおして、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を涵養する。また、多面的な学びの場の提供、ICTの活用などをとおして、教室以外でも生徒が学ぶことができる環境を整備する。併せて、本校の魅力をSNSなどの電子媒体等も活用することで広く発信し、地域の信頼を高める。</p>	○生徒一人一人の資質・能力を最大限に伸ばす	これからの時代に求められる資質・能力が身に付くように、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を日々行い、教師及び生徒がICTを活用しながら「個別最適な学び」や「協働的な学び」等を通じて「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」を醸成する。また、観点別評価を充実させ、指導と評価の一体化を目指す。	
	○計画的なキャリア教育の実施	指導の要となる特別活動や教育活動全体を通じて、ガイダンスとカウンセリングの機能を充実させながら、生徒一人一人の可能性を最大限に発揮できるように計画的にキャリア教育を実施する。その際、生徒が意思決定を行う場面に重点を置く。	
	○特別活動及び部活動の活性化	生徒に自己存在感を深めさせながら、共感的な人間関係を育成し、自己決定の場をとおして自己の可能性の開発を援助することで、自己指導能力の育成を目指す。その際、生徒が合意形成を図る場面に重点化を置く。	
	○課題を発見し解決していく資質・能力の育成	総合的な探究の時間を含むすべての教育活動で、自己の在り方生き方を考えながら、課題を発見し、解決していくような学びを展開する。そのため、3年間をとおした総合的な探究の時間の内容を確立する。また、各教科・科目の授業や特別活動、部活動等においても創意工夫を生かした教育活動を展開する。	
	○学校安全(生活安全、交通安全、災害安全)に対する意識の向上	感染症対策を含め、生徒が自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できる資質・能力を育成するとともに、生徒の安全を確保する環境を整備する。そのために、ボランティア活動や社会貢献活動などの体験活動の機会を設定する。また、日常の環境整備の徹底を図る。	
	○課題を抱える生徒への個別の支援	個別課題の特質を理解し、一人一人の生徒に応じた指導や支援、あるいは関係機関との連携など、適切で効果的な支援を行う。そのために、生徒指導に関する研修を実施し、職員の共通認識を図る。	
	○地域・同窓生との連携	本校の教育活動の魅力や成果をSNS等の媒体も活用し、地域及び同窓生に発信し、信頼と期待を高める。また、中学校や地域において説明会の機会を増やす。	

学校関係者評価

評価(総合)

A

自己評価は	<p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや適切である</p> <p>D : 不適切である</p>
-------	--

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務班	□学力の向上	□学習を中心とした生活習慣の確立	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣に課題を抱えた生徒について、基本的な生活習慣の見直しを中心とした指導を充実させる。 ・生徒の実態と多様な進路希望に対応できる、より一層の授業の工夫改善が必要である。 ・新学習指導要領の趣旨を生かし、本校の特色化を見据えた教育課程編成や学習評価の改善に取り組む。
		□学習指導の充実	A	
		□主体的に学習に取り組む態度の育成	A	
		□三池高校の活性化	□生徒の学習意欲の喚起と新たな教育課程編成	
総務班	□学校行事	□迅速な準備と正確な記録、円滑な運営(入学式、卒業式、始・終業式、全校朝礼等)	A	<p>【企画】</p> <p>学校行事等の運営に関しては、感染症対策の為、急遽変更を余儀なくされることはあったが、計画的に運営することができた。</p> <p>来年度は第1棟の改築も始まり、例年通りと変わらないことも多くなると考えられる。文書等の記録・保管に関しても、保管場所がなくなるため、現在までのものを含め、整理工夫を行わなければならない。様々な場面を想定した上で状況を的確に把握しつつ他分掌と協力し円滑な企画運営を行うことが必要である。</p> <p>【広報】</p> <p>SNSを用いた広報活動は、対生徒、対保護者のみならず、現状において抜きにして考えることはできない。如何に迅速に発信していくかが課題である。</p> <p>中学校訪問やオープンスクールなどについて、年度当初からより詳細に計画し、進路相談事業等を含め内容の精選を行う必要がある。</p> <p>「三高だより」とPTA新聞の「樞ヶ丘」に関しては、数年前から内容面でより差別化することが難しくなっている。しかし、再度、紙面についての検討が必要である。</p>
	□広報活動の充実	□令和5年度入試の志願者倍率、1.2倍超を目指す。	B	
	□庶務関係	□迅速な準備と正確な記録、円滑な運営(諸会議の準備、巡視割等)	A	
	□関係機関との連携	□各種会議の円滑な運営(父母教師会関係、同窓会関係)	A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度から新学習指導要領の趣旨を反映した授業が展開され、学習評価等の改善に取り組まれている。特色ある学校の推進に向けて今後も継続して教育課程の編纂に取り組んでいただきたい。 ・すべての教科においてICTを活用した授業が展開されていることは評価できる。 ・一人一台のタブレットが配置され、ICTを活用した授業が実施できる環境が整ったと判断している。ICTを活用した授業を推進して、「個別最適な学び」の充実を図っていくためには、指導される先生方のスキルの上昇が重要であると考える。研修等を充実していただきたい。また、生徒の学習方法等の実態調査をしていただき、できるだけ生徒のニーズを反映させた指導をう取組をしていただきたい。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は新型コロナ感染症の感染状況に応じて様々な工夫の下に実施されていることは評価できる。 ・次年度の入学志願者が定員割れしている。原因を分析して広報活動に活かしていただきたい。 ・SNSを活用した広報活動は行われているが、まだまだ発信している情報量が少ないように思う。学校の魅力を少しでも多く発信する工夫をして頂きたい。 ・生徒が積極的に小学校や中学校を訪問し生き生きとした姿で学校の魅力を伝えることができれば非常に効果的なPRができると考える。次年度以降は是非生徒のマンパワーを活かした広報活動を実施していただきたい。 情報発信に伴う中学校や生徒保護者の意識の変容が確認出来るようであればさらに良い評価となる。

項目		本年度の具体的目標	目標実現のための具体的な方策	評価(3月)	次年度の主要課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
進路指導班	□進路研究・進路学習	□課題解決能力、表現力の育成	□各学年の担当と学年との連携を密にした企画運営 □学部・学科研究による進路意識の高揚 □小論文指導や探究活動とおとした自己表現力の養成 □「志講演会」及び「出前講座」「リモート講義」とおとしたグローバルな視野を持った人材育成 □学事部、1・2学年と連携した「総合的な探究の時間」の企画	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今まであまり行っていないかった、「社会人講演会」を1、2年生で複数回実施してもらったのは、勤労観・職業観育成の上でとても良かった。各学年と連携して大学の出前講座に加えて、来年度も是非行いたい。 ・学力の二極化改善のために、それぞれの先生方が個に応じた指導をきめ細やかに行っていただいているので、継続してほしい。 ・課外・土曜チャレンジセミナーに関しては、実施しない学校も増えてきており、今後検討しなければならぬかもしれないが、本校では実践力アップの要になっているので、次年度も更に充実させて実施したい。 ・資格取得や高校時の活動履歴を活かした入試にも対応できるように、学外の活動や様々な資格取得を今後も紹介し、より多くの生徒が参加するように促す。 ・長期休業中の補習時のオンライン授業準備や欠席対応について、組織的な方法を検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探求の時間は、生徒が多様な社会で活躍できる資質の育成に多大な影響を与える活動であると考えられる。3年間を見通した計画的な活動の実施をお願いしたい。 ・進路実現に向けた様々な取組による進路実績の変様を地域・保護者にPRすることができればさらに良い評価となる。 ・学力の二極化改善の為の「個に応じた指導」は生徒にとって大変ありがたい取り組みであると考え。次年度も様々な工夫をしていただき、効果的な指導を継続して行っていただきたい。
	□進学・就職指導	□個に応じた第1志望進路の決定 ・国公立大学合格40名以上 ・公務員(就職)希望者合格率80%以上 ・西南学院大学合格のべ20名以上 ・福岡大学合格のべ70名以上 □面談及び個別指導の充実 □新しい入試制度への対応	□復習考査の充実(長期休業中の学習の復習として位置付け、効果的な運営を行う。) □小論文・面接指導の充実(職員が連携した指導を行えるよう状況を整える。) □受験校・就職先の綿密な検討(入試制度を理解させ、有効な受験校選択・出願を促す。年間2回の受験校検討会実施する。就職希望生徒の個別対応をする。) □進路のしおり「蒼穹」の内容充実(「先輩への一言アドバイス」の追加。) □「資格等取得用紙」(仮称)をキャリア育成部が作成・回収(本年度1年生より年次進行。)	B			
	□模擬試験	□1、2年生は進研模試総合(国数英)平均偏差値50以上 □3年生は進研模試の各教科・科目の偏差値1、2年次ピーク到達 □学力の2極化の解消及びその対応	□朝夕課外・土曜チャレンジセミナーの充実(各教科・学年と連携し内容の検討を行い、柔軟に対応していく。) □長期休業中の補習の充実 □模試分析会の充実(1・2学年は各模試後に毎回分析会を実施。3学年は必ず教科で分析会を実施。学年・教科で課題解決策を考え、その内容を習熟度別に生徒へ提示する。) □ハイレベル模試、個別大模試の推奨	B			
研修・図書班	□図書(読書)の推進	□生徒の読書量を増加させる。 □図書室の利用を促進する。 □ブックワゴンの活用を再開・促進する。 □図書委員合同研修会に積極的に参加する。	□他分掌や学年、教科と連携し、生徒の読書に親しむ態度を育成する。 □図書委員会主体で発表会や読書活動の推進等を行う。 □図書委員合同研修会での主体的活動を通して生徒の自主性を育成する。 □図書委員合同研修会で得た成果を、ライブラリーニュース等を通じて全校生徒に還元する。	A	<ul style="list-style-type: none"> 【図書】 次年度、新図書室がオープンするので、PRをしっかりと行っていく。また、できるだけ生徒に新図書室に足を運んでもらうため、bookワゴンについては年度当初は中止するが、SNSやライブラリーニュースを活用して発信していく。また、中学生へのPRとしても活用していく。 【研修】 一人一台端末の運用に伴い、教師側のICTスキルの向上を図っていく。全体研修ではなく、支援員を活用したミニ研修会を定期的で開催し技術の向上を図りたい。また、アンケート集計などはformをうまく利用して作業効率を向上させていく。 人権教育について、今年度から取り組んだ年間3回を検討し、学年の学習内容に沿った回数を検討していく。 教育実習は、今まで以上に内容が充実したものになるように、指導教員と連携を図りながら検討していく。 若年教員の授業参観については、今後も継続していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の年齢の二極化が進んでいる、学校のもつ指導力を維持するためにも、若手教職員に対して、指導技術等のノウハウを継承する研修会の実施やOJTによる知識・技術・マナー等を身に付けさせる体制を整えて頂きたい。 ・生徒一人一台のタブレットが導入されICTを活用した個に応じた学習指導等、学習指導の在り方が大きく変わってきている、これらの取組が効果的な指導になっているかの検証を行い、課題を明確にし、指導する側のスキルを向上させることで、効果的な指導に発展することが出来れば更に良い評価となる。
	□職員の資質・能力の向上	□教科指導力の向上、特に新学習指導要領に基づいた思考力、判断力、表現力を育むための授業改善に努める。 □多様化する生徒や時代に求められる指導力向上のための研修会の推進を図る。 □若年教員の授業力向上を図る。	□教育センター等の外部での新たな学びに関する授業研究やICT教育、人権教育等の研修会への積極的に参加を呼びかける。 □外部の研修会に参加して得た成果を各教科・分掌等で共有する。 □授業研究月間(10月)を設け、各教科代表者の研究授業及び相互参観授業を行う。 □若年教員の教科指導力向上のため、経験年数5年以下および常勤講師は月に1度以上、参観授業を行い、分析用紙を提出する。 □授業アンケートを実施することで、生徒の実態や各教科の課題を把握・認識し、授業改善を図る。 □各教科の研究授業指導案を年度共通フォルダ内で管理し、先生方が利用しやすいように工夫する。	B			
	□人権教育の充実	□全教科・領域で、人権教育に関する目標を年間計画に盛り込み教育活動を行う。 □各学年3回(3年生は2回)の人権教育の充実を図る。	□全教科・領域における人権教育に関する情報を収集し、実態に応じた指導内容を検討する。 □学年事前検討会を授業実施日の2週間程度前に設定し、十分な準備時間を確保する。	A			
	□教育実習の企画・運営	□教育実習をとおして、実習生の人間形成と教師としての資質向上を目指す。同時に、指導担当者の指導力の向上の機会とする。	□大学との連絡をホームページ等を活用し円滑に行う。 □連絡会(朝・夕)をとおして、学ぶ意欲を持続させるとともに、実習生としての自覚と責任ある行動を喚起する。 □学校行事等、教育の意義や価値を体験できる場を積極的に提供する。 □教育実習生への指導・連絡の内容について、職員が把握できるよう連絡方法を工夫する。	A			
生徒指導班	□生徒会活動の充実	□生徒会執行部・各種委員会の年間計画を立てさせ、主体的・体系的に運営させる。 □既存の学校行事(大運動会・三高祭・校内体育大会等)を通して、共感的な人間関係を育成し、生徒が合意形成を図る場面に重点を置く。	□学校行事等に年間の見通しを持ち、ビジョンを明確にして生徒会執行部のリーダーシップのもと、感染症対策を徹底し、企画・立案・実行できるように指導する。 □生徒の主体的活動を促すことを生徒会の主な課題と位置付け、生徒会執行部と教員との連携を密にし、生徒が主体的に学校行事等の運営を行うシステムを確立する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大運動会の組体操を危険性等を考慮して、別の種目に考え直す必要がある。 ・三高祭を充実させるための職員と生徒の組織作りを考える。 ・SNSに関する講演会を実施する。 ・運動部集会を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における行事の運営は評価が分かれるところであるが、生徒の自主性を尊重した指導がなされている面は評価できる。 様々な取組に対する生徒の変様を捉え、中学生や保護者、地域にPRすることが出来れば相乗的に学校の活性化につながりさらに良い評価ができる。
	□基本的生活習慣の確立と自己指導能力の育成	□特別指導等の問題行動を年間で0件を目指す。 □携帯電話等に関する規定違反件数5件以下を目指す。 □挨拶の励行・時間の厳守・端正な服装を生徒に身に付けさせる。服装頭髪等違反生徒を5%以下とする。	□積極的生徒指導を全職員で行い、問題行動を未然に防ぐ環境づくりを行う。 □情報の授業との連携を図り、SNSの正しい使用方法等を学ばせる。 □各学年において、定期的に正装点検を行い生徒の規範意識の高揚を図る。 □生徒会執行部・各種委員会を中心に挨拶運動等をおこない、三高生としてふさわしい行動が取れる生徒を育成する。	A			
	□安全教育	□年間の交通事故・事件件数を10件以下を目指す。特にバイク通学者の事故については0件を目指す。	□集会やHR等で交通ルール遵守、命の大切さを訴え、自他に思いやりが持てる生徒を育成する。 □バイク通学者に対して、保護者と共にバイク説明会を実施する。	B			
	□部活動の活性化	□部活動加入率を運動部で55%、文化部で25%以上にし、学校生活全般で模範となる生徒を育成する。	□部活動紹介や体験入部を充実させることで新入生の部活動加入促進を図る。 □生徒数に応じた、部活動数の検討を行う。	A			

項目		本年度の具体的目標	目標実現のための具体的な方策	評価(3月)	次年度の主要課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
保健班	□生徒の健康維持増進	□疾病、感染症(COVID-19)予防に努める。 □自己の健康管理を主体的に行う力を身に付ける。 □主体的な生徒保健委員会の活動を目指し、自己指導能力を育てる。	□感染再拡大を防ぐ為に、学校内外における基本的な感染症対策を徹底する。(部活動、各行事でのコロナ予防対策) □保健班の会議、研修、協議を随時行い、他分掌と連携を図りながら感染対策、チェック体制を整えていく。 □各検診別未治療者に関して治療を促し、家庭と連携を取りながら事後処置(検査・治療)を目指す。 □生徒自らが心身の健康課題に対し自主的に行動できるように、現状の把握を行い、指導・啓発活動を行う。(保健委員の活動、保健だよりの発行、放送、面談、献血実施など)	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染防止に向けて、引き続き感染対策の徹底を行う。 保健委員による啓発・活動を行う。 献血セミナー、献血の実施を計画的に行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止に対して、様々な対策を講じて教育活動の継続に尽力していただいた。 感染予防対策や事後対応等の取組についての情報を地域・保護者・生徒等により速やかに発信して頂きたい。
	□安全教育と安全管理の充実	□安全管理体制の整備を行い、全職員の共通理解を図る。 □生徒の安全対応能力を育むとともに職員の危機管理能力、資質の向上を図る。	□校舎改築工事に伴い、危険箇所改善や予防に向け、適宜、職場安全点検を行い、他分掌と連携を図る。 □学校保健計画、学校安全計画の見直しを行う。 □防災意識を高め、危機管理能力を養わせる。(教急救命講習会、防災避難訓練など)	A	<ul style="list-style-type: none"> 清掃における強化週間をもうける。 ゴミ分別の徹底とゴミの減量に努める。 		
	□環境整備と環境美化	□掃除の徹底、ゴミの分別・減量化を図る。 □主体的な美化委員会の活動を目指して、奉仕の精神や愛校心を育てる。	□月一大掃除の内容を充実させ、行事に連動して検討・計画する。 □美化委員会を中心にゴミの持ち帰りの徹底や減量化に向けた活動の支援を行う。 (学期ごとのゴミの分別等の呼びかけ活動、清掃強化週間の実施、掃除道具の点検・充足化)	B	<ul style="list-style-type: none"> 気づきファイルを次年度の担任に申し送ることができるように随時記入を促す。 		
	□いじめの未然防止と早期発見	□迅速かつ適切で、丁寧な対応を組織的に取り組む。 □生徒の自己有用感の向上に努める。	□いじめ問題対策委員会を定期的に行うことで、情報を共有し、その解決策について検討する。 □必要に応じて、第三者の指導、助言を仰ぐ。 □いじめの未然防止に向けて、職員研修、道徳教育、人権教育、啓発活動の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止、いじめ問題対策委員会を引き続き、継続的に行う。 		
	□教育相談の充実	□早期発見、早期対応に努める。 □情報の共有と具体的な対応を組織的に行う。 □ケース会議の充実を図る。	□担任・学年・教科担当・保健室との連携により、迅速な対応を行う。また、関係機関との連携の充実を図る。 □特別支援教育コーディネーターを中心に、各学年の教育相談担当者との連携を図りながら、生徒の把握に努め、全職員で情報を共有し、支援を行う。(生徒気付きファイルの活用の徹底、教科会議での情報共有、個別の支援計画の作成・実施)	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談において、個別の支援計画を作成し、各教科担当者との情報共有・連携を図る。 		
第一学年	□基本的生活習慣の確立	□高校生活のリズムの定着 □学習規律の確立と雰囲気づくり □自己管理の徹底 □部活動への積極的参加 (加入率90%) □三高生としての自覚と誇りの醸成	□常に集団の中での自分の役割を自覚させることで、主体的に気持ちの良い挨拶、5分前行動、清掃、元気の良い号令を身につかせる。 □TPOを意識した服装と言葉遣いを心がけさせる等、ルールやマナーを守らせ、安心安全な環境づくりに貢献する。 □担任を中心に家庭と連携を密接に取りながら指導を行い、学年団で情報共有を図る。 □総合的な探究の時間やホームルーム活動とおとして、自己を知り、高い志を持たせる。 □3点固定(起床時間、学習開始時間、就寝時間)を定着させる。 □環境整備(掃除・移動教室時の身の周りの整備)に努めさせる。メモの利用や教室掲示の工夫をし、提出期限を守る習慣をつけさせる。 □部活動への帰属意識学校生活に生かし、学業と両立を図らせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムの乱れの要因として考えられるスマートフォン利用について、外部講師による講話を実施することで啓発していく。 生徒自身が善悪の判断をつけ自己決定できるように、できるだけ明確に、そして具体的に、学年団が共通認識のもと指導にあたる。 細やかに家庭との連絡を行うとともに、引き続き、学年便りやPTA行事等で学校での状況を伝えていく(HPやインスタ等も活用)。また、学年便りを活用し、保護者の意見を取り上げていく。 2年後の新課程での受験につながる学力をつけていく為に、教科横断的な視点で総合的な探究の時間や各教科等で育成できる内容を考え実施していく。 将来の生き方に対し、意欲、興味・関心をもって考えていく為に、充実した進路学習(講演会等)を実施していく。 いじめ、不登校等の生徒指導上の問題に関しては、管理職への連絡、教員間の情報共有、保護者との連携を密にし、SC等の活用を早期に行っていく。 生徒の心のケアにおいては、学校、保護者、SC等の第三者機関と連携を取りながら、きめ細やかな指導で生徒の自立を促していく。 得意分野を伸ばす、途中で諦めさせない、意欲を高める等の指導の仕掛けを学年団で模索し、情報共有しながら実施につなげていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒への対応が求められている。的確な情報共有を行って頂くと共に、SC、訪問相談員、SSWの活用と支援を必要とする生徒に対して具体的な取組の共有を図る教育相談委員会の活用を行い、初期対応が迅速にできるようにお願いしたい。 総合的な探求の時間は3年間を見通して計画的な活動をお願いしたい。
	□確かな学力の向上と進路意識の高揚	□主体的に学ぶ力の育成 □平日の平均学習時間120分以上、休日の平均学習時間200分以上 □模試で平均偏差値50以上 □自己教育力の向上	□各教科担当と情報共有を図りながら、勉強の仕方などを徹底的に体得させる。 □見通しを立てて計画的に学習する習慣を身に付けさせるために、「生活の記録」からの実態を把握し、適宜指導・助言を行う。 □基礎学力の定着を図るために、定期的に終礼時テストを実施する。成績不振者に対しては、調査前補講や個別指導を、成績上位者に対しては個別の添削指導等を行う。 □自分の将来の生き方につなげられるよう、毎日の新聞記事を掲示する。さらに、SHR等で自分の考えを伝える場を設定する。 □総合的な探究の時間やホームルーム活動を通して、多様な考え方や価値観に触れ、自分自身を見つめさせ、進路について考える機会とする。 □模試や英検、漢検等を積極的に受験することで自信を持たせる。また、コンクールや大会等に参加することで知識、技能の向上を図る。 □観点別評価の本格的実施により、学びの質を変え指導改善を行うことで、生徒が学びに向かう力を育成する。	A			
	□コロナ禍を生き抜く力の育成	□失敗を恐れずに挑戦する力、貫徹力の育成 □自己指導能力の育成 □多面的・多角的な見方・考え方の習得 □他者を思いやる心の涵養 □主体性と伝え合う力の育成	□学校行事や部活動、学校外活動等に積極的に参加させることで、達成感や充実感を味わわせ自信をつけさせる。 □あらゆる場面で教師自身の体験談を話す場を設定することで、人間としての在り方生き方についての自覚を深めさせる。 □自己決定の場を大切にするとともに、生徒の発言を最後までしっかり聞くことで、自己存在感を高める。 □WebQ&Aやいじめアンケート、個人面談等で生徒の状況把握に努める等、日頃から生徒の課題を見極め、いじめの未然防止、早期対応に努める。 □生徒指導上の諸問題では、管理職への連絡、教員間での報告・連絡・相談・記録の体制を確立し、早期解決につなげる。 □教員側が生徒への問いかけ方を工夫したり、異なる視点・立場から考える場面を意識的に設定することで、コミュニケーションスキルを高めるとともに互いに認めあう集団を育てる。	A			

項目		本年度の具体的目標	目標実現のための具体的な方策	評価(3月)		項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
第二学年	□基礎学力の定着・個別最適な学び	□平日の平均学習時間150分以上、休日の平均学習時間200分以上 □外部模擬試験において平均偏差値50以上 □学習サイクルの徹底 □ICT活用、主体的・対話的で深い学びへの取り組み	□昨年度に引き続き、課外、授業、家庭学習をととした学習サイクルを徹底させ、基礎学力の定着を図る。 □プロジェクター、電子黒板の利用による授業改善により、各授業の密度を上げ、深い学びへつなげる。 □成績上位者への特別講座等の実施を行い難関大受験を意識させ、成績不振者への個別指導をととして基本事項の徹底を指導する。 □TeamsやGoogle classroomを活用し、様々な学力層の生徒への支援を計画的に行う。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒の学習到達度がこの1年で差が開き、特に「個別最適な学び」という観点において、習熟度別授業の充実を図った。さらに次年度は多岐にわたることが予想されるので、個に応じた学習支援を行っていく。 ・ICT活用については、Teams,Google classroomを使用し、授業の補足プリント等を配信でき、生徒の満足度は上昇したと考える。 ・総合的な探究の時間では、主に進学に関する話題を多く扱った。将来のビジョンが描けたら、との思いで講演会を多く実施したが、その中でいただいた話から自分のキャリア設計図がイメージし始められた、との声が多数あり、次年度も計画していきたい。 ・生徒の状況については、昨年度以上に担任団と連絡報告を密にするよう心がけた。また、適宜二者面談を実施したことで、生徒の最新の状況をいち早くキャッチできたと感じる。次年度は受験を控えているので、引き続き生徒の考えを早く掴めるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度はコロナ禍において3年ぶりに大運動会を実施したものの修学旅行先の変更や三高祭の一般公開を中止するなど予測が難しい事柄にチャレンジする学年であったことが伺える。 ・令和5年度は新型コロナウイルス感染症が第二類から第五類に変更となり、学校行事等が従来通りの実施が期待できる。これまでに培った、困難な状況においても柔軟に対応してきたノウハウを十分に活かして活動できるようにしていきたい。 ・次年度は様々な行事への取組がなされると思うが、現在中多くの高校生の使用しているインスタグラムを使って様々な学校の魅力を最大限に情報発信してPRしていきたい。生徒のニーズをリサーチして、そこを活かした情報発信ができれば生徒募集に繋がると考える。
	□生徒一人一人の資質能力の向上	□教育活動全般における主体的な態度の育成 □総合的な探究の時間や特別活動の充実 □部活動や学校行事における中堅学年としての役割の指導	□自ら考え、判断し、行動することを指導し、責任感を持たせ、達成感や充実感を味わわせる。 □総合的な探究の時間やホームルーム活動では、進路学習や学部学科研究、社会人出前講座等をととして、自己の在り方生き方をイメージさせることで進路意識の向上につなぐ。 □年3回行われる人権教育授業において、他者への配慮・思いやりとは何かを学ばせる機会として、自己指導能力の育成を図る。 □部活動や学校行事をととして、上級生の姿を見て、考えて行動することへ意識を向ける。また下級生への指導や支援の機会の中で、自らの先輩としての考えや行動を示させる。	A				
	□課題を抱える生徒への指導・支援	□生徒の現在の状況を把握 □家庭との連絡をより密に □教員間の情報共有もより密に	□定期的に行う二者面談に加え、気になる生徒と個別面談を行いながら現在の生徒の心理状況・考えていることをいち早くキャッチする。 □いじめアンケート・学校生活アンケート・WEBQUで自己を見つめなおす機会とし、諸問題の未然防止を徹底する。問題発生時には速やかに諸先生方に報告・相談し、次の対応へ速やかに移行する。 □保護者との連絡を昨年度以上に密にし、学校・家庭が一枚岩となり生徒指導にあたる。 □昨年度同様、隔週の学年会を実施し、生徒理解に努める。また、日頃の職員室内での情報共有を密にする。	A				
第三学年	□果敢に挑む意欲・磨き続ける態度・和する姿勢の育成	□スローガン「最後は気持ちの勝負」の定着 □教育活動の全教科・全領域において、努力しやり遂げさせる指導に取り組む □積極的な生徒指導を基本に、自己存在感、自尊感情の高まりを目指す	□学年集会、学年通信等において、スローガンを浸透・定着させる。 □結果のみでなく、過程にも着目し生徒への適切な評価を心掛ける。 □「生徒主体」、「自己決定の場面」、「合意形成プロセス」を柱とし、生徒指導の充実を図る。 □道徳教育からの働きかけを大切に、自他の生命尊重や社会奉仕の精神を養うことで、社会貢献することができる人材育成を目指す。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スローガンは、3年間を通じて精神的な成長を期すものが多かった。その成果か、3年間を通じて、欠席・遅刻・早退が過去2か年と比べて少なく、学校生活の中で全人格的に、着実に力を付けてきた生徒が多いと思う。例え共通テストの結果が振るわなくても、出願を諦めずに国公立大学の合格に向けて努力する生徒が多いことから、最後までやり通す強さを備える成長を見せている。これからの実績に期待したい。 ・課題として、これから多様化する大学入試に向けて、特に総合型及び学校推薦型選抜に対する効果的な方策を講じることでと感じる。偏差値の高まりのみでなく、入試形態に応じて早期から指導に取り掛かり、進路実現に繋ぐこと。個に応じた進路指導の充実をキャリア育成部と連携し、体系的に取り掛かることで進路実績の向上につながると感じる。 	
	□確かな生徒理解を土台に、資質・能力の伸長を図り、進路実現につなげる	□家庭学習の定着(平日150分/日・休日300分/日) □偏差値 各教科・科目1・2年次のピーク到達 □国公立大学40名以上(理系:25 文系:15) □西南学院大学合格20名以上 □福岡大学合格70名以上	□ガイダンスの充実を図り、生徒、保護者との合意形成の下、早期の目標設定を目指す。 □定期に生活の記録の実施し、指導・助言を行うことで、「朝課外-授業-補習-家庭学習」の受験スタイルを定着させる。 □総合型及び学校推薦型選抜における生徒の適性理解に努め、個別指導の充実を図る。 □最新の情報を基に現状を知り、対策を講じる。また、模試分析では、結果のフィードバックを大切に、学力向上につながる魅力ある授業づくりを心掛ける。 □生徒の実態に応じて、講座、学習会を実施し、学力の向上につなげる。	A				
	□「つながり」を大事にした生徒指導の充実	□教職員相互のつながりを大事に、情報を共有し生徒理解に努める □教師と保護者の信頼関係を軸に、相互補完的に、共に生徒(子供)の成長に携わる □教育関連企業との連携を通して、大学や受験についての知識を深め、進路意識の高揚につなげる	□定期的な学年会議(担任会議)はもとより、日頃からの生徒情報の共有を心掛け、組織的な指導の充実を図る。 □ケースに応じて、スクールカウンセラーや関係機関との連携により、効果的な支援ができるようにする。 □生徒指導において、教師と保護者が互いに足りない部分を補い合えるよう、信頼関係を土台に、課題解決の手立てを講じる。 □教育関連企業と連携し、ガイダンスや大学訪問などの機会を検討し、進路意識の高まりをねらう。	A				
事務部	□予算執行	□限られた予算の範囲内で効果的な執行	□学校全体で節電・節水等光熱水費を含め経費節減に取り組む。 □年間の運営計画を見極めながら効率的な予算執行を行う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費の高騰のため需用費や備品費を光熱水費に充てて対応した。今後は購入する物品や役務等の更なる精選が必要である。 ・大規模改築にかかる連絡・調整が一部徹底されていなかった。確実な伝達と幾通りかのアナウンスを充実させたい。 	
	□施設の管理	□大規模改築事業にかかる職員間の情報の共有及び安全管理	□解体・建築工事等実施する中で職員間の連携を密にする。 □生徒の安全管理、環境整備に取り組む。	B				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- (1)「個別最適な学び」および「協働的な学び」の実践
- (2)計画的なキャリア教育の実施
- (3)生徒の「進取」、「自治」の意識の育成
- (4)広報活動の充実
- (5)学校安全(生活安全、交通安全、災害安全)に対する意識の向上
- (6)課題を抱える生徒への個別の支援

評価項目以外のものに関する意見

--